

## 2023年3月期 第1四半期決算概要

- 建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の好調が継続。  
原燃材料やその他コスト増加の影響を価格改善およびコスト削減効果で吸収、個別開示項目収益の計上もあり、順調なスタート
- 当初想定を上回る第1四半期実績および円安の影響を踏まえ、上期業績予想・通期売上高予想を上方修正。  
エネルギー価格高騰、世界的なインフレ拡大等で投入コスト増加の影響が継続、金利上昇の影響による景気後退のリスク等、下期の事業環境が不透明なため、通期利益予想は据え置き。  
引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格転嫁に努め、収益性改善に注力
- 中期経営計画「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づく構造改革の諸施策は順調に進捗。  
「事業構造改革」について、マレーシアの既存フロート窯に、太陽電池パネル用ガラスを製造するためのオンラインコーティング設備を新設（2024年3月期より生産開始予定）。  
「財務基盤の回復」については、自己資本比率 18%超まで回復

### 1. 2023年3月期 第1四半期決算

- 売上高は 1,779 億円（前年同期比+302 億円、+20.5%）、営業利益は 83 億円（同+11 億円、+15.4%）と、自動車用ガラス事業の営業損失を建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の増益がカバー
- 個別開示項目は 23 億円、2017 年に米国で発生した竜巻被災に關しての和解金受取に伴う収益計上、純利益\*は 24 億円と順調なスタート
- 自己資本比率は 18.1%（前期末比+2.6pt）とさらに回復

#### <損益計算書および財務指標>

(億円)	4-6月期 (3か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	1,477	<b>1,779</b>	302
営業利益	72	<b>83</b>	11
営業利益率	4.8%	<b>4.6%</b>	△ 0.2pt
個別開示項目 (純額)	△ 2	<b>23</b>	25
個別開示項目後営業利益	70	<b>106</b>	36
金融費用 (純額)	△ 29	△ <b>28</b>	1
持分法による投資損益	15	<b>22</b>	8
持分法投資に關する その他の利益 (△損失)	-	△ <b>12</b>	△ 12
税引前利益	55	<b>88</b>	33
当期利益	29	<b>33</b>	4
純利益*	25	<b>24</b>	△ 2
EBITDA	165	<b>180</b>	16
フリー・キャッシュ・フロー	△ 96	△ <b>129</b>	△ 33

\*親会社の所有者に帰属する当期利益

(億円)	2022年 3月末	2022年 6月末	増減
総資産	9,393	<b>10,035</b>	642
親会社の所有者に帰属する持分	1,453	1,815	362
自己資本比率	15.5%	<b>18.1%</b>	+2.6pt

## <各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州をはじめ全地域で堅調な需要が継続。 エネルギーを中心に原燃材料価格高騰の影響を受けるが、価格改善およびコスト削減により軽減、大幅増益。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調継続
自動車用ガラス事業	4-6 月期は為替影響もあり増収ながら、半導体等部品不足による自動車生産制約と原燃材料費高騰の影響が続き、コスト削減努力にもかかわらず営業損失計上。 自動車メーカーとの価格改善交渉は進展中、効果は第 2 四半期以降発現見込み
高機能ガラス事業	堅調な需要とコスト削減を背景に、前年 9 月に売却したバッテリーセパレーター事業を除き増収増益を継続。全体として収益性がさらに改善

(億円)	4-6月期		
	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比
<b>売上高</b>			
建築用ガラス事業	645	856	211
自動車用ガラス事業	709	816	107
高機能ガラス事業	114	99	△ 14
その他	9	8	△ 1
<b>売上高合計</b>	<b>1,477</b>	<b>1,779</b>	<b>302</b>
<b>営業利益</b>			
建築用ガラス事業	61	89	28
自動車用ガラス事業	13	△ 7	△ 20
高機能ガラス事業	28	32	4
その他	△ 31	△ 31	△ 1
<b>営業利益合計</b>	<b>72</b>	<b>83</b>	<b>11</b>

## 2. 2023年3月期 業績予想

- 建築用ガラス事業を中心に当初想定を上回る第 1 四半期の実績を踏まえ、上期業績予想・通期売上高予想を上方修正
- 円安の影響は継続するが、エネルギー価格高騰、インフレ拡大等での投入コスト増加、金利上昇による景気後退リスク等、下期の事業環境が不透明なため、通期利益予想は据置
- 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力

## <業績予想>

(億円)	2023年3月期	2023年3月期	2023年3月期	2023年3月期	2022年3月期
	上期予想 (前回)	上期予想 (今回)	通期予想 (前回)	通期予想 (今回)	通期実績
売上高	3,200	<b>3,600</b>	6,500	<b>6,900</b>	6,006
営業利益	70	<b>110</b>	180	<b>180</b>	200
個別開示項目 (純額)	20	<b>20</b>	20	<b>20</b>	36
個別開示項目後営業利益	90	<b>130</b>	200	<b>200</b>	236
金融費用 (純額)	△ 70	△ <b>60</b>	△ 130	△ <b>130</b>	△ 125
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	△ 34
持分法による投資損益	} 20	} <b>20</b>	} 40	} <b>40</b>	75
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)					△ 34
税引前利益	40	<b>90</b>	110	<b>110</b>	119
当期利益	20	<b>40</b>	50	<b>50</b>	68
純利益*	20	<b>30</b>	40	<b>40</b>	41

\*親会社の所有者に帰属する当期利益